

コニカミノルタ株式会社

2020 年（平成32年）3月期 第1四半期 決算説明会

主な質問と回答

日 時： 2019 年 7 月 30 日（火） 18:00 ～ 19:00

場 所： 野村コンファレンスプラザ日本橋

<ご留意事項>

「主な質問と回答」は、決算説明会に出席になれなかった方々の便宜のため、参考として掲載しています。説明会でお話したこと全てをそのまま書き起こしたのではなく、当社の判断で簡潔にまとめたものであることをご了承ください。

また、本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があることをご了承ください。

【全社業績に関して】

Q. 特殊要因を除けば引き続き増益予想であるということで力強く思っていますが、具体的に何億円増益になるのか教えてください。

A. 今回の業績見通しは、去年との実質的な利益で見た場合、為替の影響は除いた数字でトータル 100 億円ぐらいの増益と考えています。事業別では前年比で、オフィス事業がプラス 28 億円、プロフェッショナルプリント事業がプラス 32 億円、ヘルスケア事業がプラス 16 億円、産業用材料・機器事業がプラス 21 億円、新規事業がプラス 73 億円です。

Q. 今回の営業利益 60 億円の下修正というのは、ほぼ第 1 四半期の未達分を年間で下げたと理解してよいのでしょうか。

A. 第 1 四半期の実績が会社計画よりスローであったのは事実ですが、60 億円引き下げた内訳につきましては、為替の影響が年間で 20 億円、計測機器事業で第 1 四半期に顕在化した影響が第 2 四半期まで続くとして 20 億円、オフィス事業で第 2 四半期以降ノンハード売上の想定を見直した影響で 10 億円、新規事業のバイオヘルスケアで発生した一過性費用の 3 億円を含んだ 20 億円、これらの合計が 70 億円になります。これに対して、コーポレートで約 30 億円を想定していた CRE 費用は、第 1 四半期に 20 億円発生し、10 億円改善したので、70 億円から 10 億円引いて 60 億円という構成となっています。

【事業に関して】

Q. オフィス事業とプロフェッショナル事業の競争環境はいかがでしょうか。プラス方向またはマイナス方向への変化があったらお願いします。

A. 市場そのものとしては、大きくは変わっていないと見ていますが、MIF を増やしていくという部分での競争は激しくなっていると見ています。価格競争とバリューとの争いが実際に生じています。弊社としては、従来からご説明しておりますとおり、できるだけバリューでいこうと、特にセキュリティーを中心にした他社との差別化で戦っていこうとしています。

Q. オフィス事業は去年、確か A3 のカラーMFP の台数伸び率が 2 桁に近かったと思うのですが、その後 MIF が弱いというのは、どのように捉えたらいいのでしょうか。

A. ノンハードそのものが MIF の台数、それと 1 台あたりのプリントボリューム、単価という構成でできていますが、今足元で見ますと、やはり少し景気の減速で、単価への影響が少しわれわれが想定したよりも強まっているという認識を持っています。

Q. オフィス事業の IT サービスソリューションは、過去 2 年間 2 桁に近い伸びの四半期があったり、人件費が高くなっているところへのソリューションの提供という提案が比較的ささっているのとことでした。この四半期は久々にかなり弱かったように感じますが、やはり経済環境の影響を受けるのでしょうか。むしろ、提案する幅が広がると思ったのですが。

A. IT サービスのところは、景気よりも内部事情にあります。具体的には過去に買収した IT サービスの会社を、MFP の販売会社へ実質的な統合等をフランスやドイツでも行っていますが、その中で若干、統合による混乱等もあり、本来納めるべきクロージングがきちっと期中でできなかったという部分が、今回の結果に影響しています。

Q. 新規事業の Workplace Hub、非常に期待していますが、今こうやって出遅れている理由を教えてください。

A. 展開国そのものは増やしていますが、第 1 四半期での顧客の獲得というところで、若干遅れが生じました。最大の理由としては、米国で展開する都市を増やしておりますが、体制を確立するというところについて遅れが生じ、リーズの拡大の活動面でまだ足りなさがありました。

Q. 新規事業のバイオヘルスケアは年間の売上げ見通しを変えていらっしゃるのですが、いつぐらいから良くなるのか、時期感に変化があるのかということについてはいかがでしょうか。

A. 上期よりも下期、第 3 四半期より第 4 四半期というかたちで伸びるという構造自体は変わっていない状況です。

以上